

「使徒たちに対する迫害 2」

2016年03月21日

使徒言行録5章27節～32節。彼らが使徒たちを引いて来て最高法院の中に立たせると、大祭司が尋問した。「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている。」ペトロとほかの使徒たちは答えた。「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません。わたしたちの先祖の神は、あなたがたが木につけて殺したイエスを復活させられました。神はイスラエルを悔い改めさせ、その罪を赦すために、この方を導き手とし、救い主として、御自分の右に上げられました。わたしたちはこの事実の証人であり、また、神が御自分に従う人々にお与えになった聖霊も、このことを証ししておられます。」

使徒たちはエルサレム神殿の境内で主イエスの福音を宣教した。それは、最高法院の議員たちが殺した主イエスは復活し自分たちのただ中に生きておられ、その復活した主イエスの名によって自分たちは病気や悪霊に苦しむ者を癒すしるしを行っているという福音であった。最高法院の議員たちにとって、この福音宣教は何としても止めさせたいことであった。使徒たちを最高法院に連れ出し、中に立たせた。そして、大祭司は「あの名によって教えるはならないと、厳しく命じておいたではないか。それなのに、お前たちはエルサレム中に自分の教えを広め、あの男の血を流した責任を我々に負わせようとしている」と尋問した。「あの名、あの男」と言い、「イエス」の名を使いたくなかったのである。あの名・イエスの名によって教えるはならないと厳命したにもかかわらず、エルサレム中に教えを言い広めている。あの男・イエスの十字架で流した血の責任を我々に負わせようとしている。彼らは使徒たちの「あなたがたが殺したイエス」という言葉に、無罪の主イエスを殺したことに良心の呵責を抱いていたことを自ら告白している。

大祭司の尋問に対し、ペトロと他の使徒たちはまず「人間に従うよりも、神に従わなくてはなりません」と、人ではなく、神に従うと言い切っている。つい先日に行われた最高法院の尋問でも、ペトロとヨハネは「神に従わないであなたがたに従うことが、神の前に正しいかどうか、考えてください。わたしたちは、見たことや聞いたことを話さないではいられないのです」と答えている。使徒たちは神に従っているという喜びと確信が最高法院の権威をものともしなかったのである。

使徒たちは証言を続けた。私たちの先祖の神はあなた方が木に、十字架につけて殺した主イエスを復活させた。神は、我々イスラエルを、十字架と復活を信じる者の罪を赦すために、主イエスを導き手とし、救い主として、ご自分の右に上げられた。神の御座の右に座り、執り成してくださっている。自分たち使徒は主イエスが復活し、生きて働いておられる事実の証人である。また、神が与えてくださった聖霊も、この救いを確かなこととして証ししている。

権威ある最高法院で、ガリラヤの無学な漁師だった使徒たちは臆することなく堂々の証言をしている。この勇氣は、十字架で死んで復活した主イエスが共にいてくださり、語るべき言葉を聖霊が教えてくださるといふ信仰によって与えられた。主イエスを裏切り、自分の安全を計って逃げ去った福音書の使徒たちとはまるで違う人に生まれ変わっている。最高法院は使徒たちの証言に圧倒されてしまった。